

表現・図工・美術

■語る会に向けての検討の経緯■

第1回 5月25日

■幼児・児童・生徒の実態から見た教科内容に関する情報交換及び問題点等 ■教科で育てたい力、重点化したい内容、大切にしたい点、留意すべき点等	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">表現</div> <p>接続期をなめらかに</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">幼</div> <div style="font-size: 1em;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">小</div> <div style="font-size: 1em;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">中</div> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 5px;"> めあてを持つ活動 造形あそび 作品制作 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 5px;">}</div> </div>	<p>情報交換（お互いの校舎へ授業・活動を参観しに行く） ※各校園のシステムを理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工の振り返りの授業に中学校から参加 ・幼稚園の活動に小学校から参加 <p style="text-align: center;">統一テーマ：かかわり合いを大切にする</p>
次回の課題や今後の見通し等	
※持参・教科書、カリキュラム、作品	

第2回 6月21日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中での情報交換を蜜に ・一貫教育に向けて、幼一小間、小一中間で授業を参観し合い、子どもの様子を観察する（現在実施中）。 	
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> つくる 遊ぶ 造形遊び </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> 工作 絵 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="text-align: center;"> 絵・彫刻 デザイン・工芸 </div> </div>	<p>発達段階に応じたカリキュラムを検討（できるだけスムーズに展開できるように）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を持ち寄ったり、子どもたちの活動の様子やカリキュラム等の情報交換を行う ・特別変わった事をする必要性はなく、接続部分でどれだけスムーズに授業を展開できるか（まずは学校園間の子どもたちの様子を知るところから）

第3回 8月10日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等	
<ul style="list-style-type: none"> ・（素材）系統表（題材配当表）の思案を立て、共通の形式を決定する 	

第4回 9月26日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統表の形式（別紙）についての検討 <p>【次回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ提示を受けて共通の形式をもとにして各校園で作成した系統表を持ち寄り協議 ・分科会の持ち方について 	

第5回 10月11日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等

- 活動事例検討 幼・小・中より持ち出し、一覧表を作成 様式等も確認
- リードの検討 素材や表現方法の系統生 幼・小・中それぞれの課題, 現状
- 【次回】 ・活動事例集作成, 検討
 - ・リードの検討
 - ・発表に向けて

第6回 10月24日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等

- リードについて 各校園種間でメールによるやりとり
- 資料 (系統表) A3サイズ ○○部印刷←11/15で確定 紙代はどこから出るのが
形式 11/8 持ち寄り 11/15 意見交換
- 当日の発表 ・図工・美術・表現について系統性の面から発表
各校園種との関連・ダブリ

流れ

- ・全体説明 5分 (佐々先生) 司会 (石上先生)
- ・PowerPoint 15分×3校園
- ・質疑応答 30分

第7回 11月 8日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等

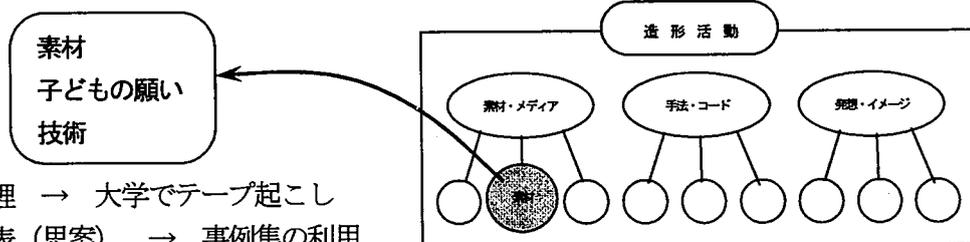
- リード検討→修正, 明日提出
- 資料検討 ・各学年の主な活動事例
・表紙
- テーマ別分科会 1, リード (松本) 10分
司会: 石上 2, 資料の概要 (佐々) 10分
3, 幼・小・中事例 (井上→松本→錦織) 30分
4, 質疑応答
5, まとめ (佐々)

【次回】 (11/5) ・リード最終検討

第8回 12月15日

■検討内容・次回の課題や今後の見通し等

- 活動事例集の利用 → 単元配列 (構成) ・カリキュラムの思案 系統性 → 発達性



- 第1部 記録の整理 → 大学でテープ起こし
- 第2部 題材配列表 (思案) → 事例集の利用
- 造形活動の発達性全体像を表す提案
様式・レイアウトを元に話し合い

幼小中一貫教育に向けて（表現・図画工作・美術）

1. 現状と課題

本校園の日々の生活や表現・図画工作・美術の活動から、子どもたちの様子を見ると、家族で美術館に行ったり、劇や音楽などを直に見たり聞いたりする機会がよくある子どもが多い。したがって、素材や場所、色や形などの造形要素や子どもが直接及び間接的に体験したことがらなどを指して「もの・こと」と表すならば、自分や友だちの表現のよさを心地よいものとしてとらえ、進んで造形的な「もの・こと」に関わろうとする子どもの姿が多く見られるとも言える。一方、自分が住んでいる地域での活動に参加したり、帰宅後に屋外にある様々な「もの・こと」に関わって遊んだりする体験の少なさが、造形表現での素材経験の少なさにつながっているのではないかと感じることもある。

現在、学校教育でめざす「生きる力」を表現・図画工作・美術の活動から考えると、「生きる力」につながる「主体性」や「自主性」、「共感性」や「社会性」を培うために、表現・図画工作・美術のもつ意義は大きいと言える。

その一つ目は、子どもたちが「もの・こと」との関わりから表現の対象に主体的に出合い、自分の表したいことを決めて材料や表現方法を選び、発想や構想を生かすために試行錯誤して自主的に表現することは、造形表現のあらゆる過程を通して「主体性」や「自主性」を育てることにつながると考えるからである。

次に、表現・図画工作・美術教育には、自分や友だちが造形表現する過程での取り組みのよさや完成した作品のよさに気づいて、それを言葉で表現して伝える鑑賞の活動がある。この活動の過程で、他者の思いを受けとめて共感したり、自分と異なる価値観や自分の表し方とはちがう表現方法を理解したりする。このように考えると、表現と表裏一体にある鑑賞の活動は、「共感性」や「社会性」を培うことにつながると考えられる。

表現・図画工作・美術では、そうした本校園の子どもたちの姿をとらえながら、前述の資質や能力を育成することをねらっている。そこで今年度は、幼小中一貫教育に向けて今一度、幼・小・中での造形活動を見直し、「素材や表現方法の系統性から、幼小中一貫教育の造形表現を探る」として造形教育の意味やよりよいカリキュラムの構築に向かって取り組んでいる。

2 幼小中一貫教育に向けて大切にしたいこと

幼児期の子どもたちは、好奇心旺盛に身の回りの物事と関わりをもち、見る・聴く・触れる・味わう・匂うなどのあらゆる感覚を使って、自分の感じたこと思ったことを表そうとする。子どもたちは、自分を素直に表し、身近な「もの・こと」に関わりながら、主体的に遊び、友だちと共有する体験を通して、豊かな感性や表現力を培っていく。そして、この幼児期に子どもたちの感性や表現に対する意欲や態度をじっくり育むことが、小学校での「図画工作」、中学校での「美術」という教科で学ぶ基礎を充実させると考えている。こうして、幼児期の子どもたちは、保育者や友だちと安定した心のつながりを基盤に、「もの・こと」との関わりを深め、思いを表現していく。そして、小学校ではより主体的に自分を取りまく「もの・こと」と関わりながら、つくりたいものへの思いをふくらませ発想し構想する姿につながっていく。また、他者との共感的なつながりは、自分や友だちの表し方や作品のよさを感じ、表現を続けていく原動力となると考え

られる。さらに、中学校では、「もの・こと」と関わる中で発見したことを自分ならではの造形表現に生かしていく。それとともに、今まで以上に自己を見つめ、他者へも視野を広げていくことができるようになる。生徒が自分らしさを大切にしながら、生活を豊かに彩り、創意工夫しながら自己表現できる力を育み、将来にわたって創造性の芽を育て、美術と豊かに関わっていく素地をつくるようにしたいと考えている。

以上の願いをもって、今年度は、今までの園校での実践をもとにして、各学年の造形表現で出合わせたい「もの・こと」を「各学年の活動事例集」として表し、表現・図画工作・美術での11年間を見通して、学年段階の適時性や学年を通した関連などを探っていくこととした。

「各学年の活動事例集」では、各学年で行う題材を各領域ごとに選び、作品と活動の概要を載せ、その活動での素材体験について表した。この活動事例集の作成にあたっては、遊びがそのまま造形表現につながっていく幼稚園の園児と自分の造形表現に用いる材料・用具、表現・技法が明確に分化している中学校の生徒、その中間にあり造形表現の試行錯誤の体験から素材体験を広げていく小学校の児童、この11年間の子どもの育ちをとらえながら素材や表現方法の系統性を探った。また、この「各学年の活動事例集」と「造形材料用具等の使用系統」との比較検討を通して、今までの実践題材の意味をとらえ直していく試みを行っている。

これらのことから、現時点で大切にしたいこととして、次の2つが考えられる。

(1) 幼児期からの子どもの全感覚を使った体験を大切にする

- ・一貫教育の中で、「もの・こと」の関わりを素材体験・表現方法の体験ととらえ、それらの広がりや深まりが生まれるような造形活動を設定する。
- ・1年間の活動の見直しをもって、素材体験・表現方法の体験を設定し、様々な感覚を使い、表現したくなる思いをふくらませることができるよう造形活動を考える。
- ・自分の見つけたことを試し、自分らしい表現を見つけようとする意欲を喚起し、思いを造形表現で実現できる喜びを味わうことができるような造形活動を展開していく。
- ・幼稚園においては、上記の造形表現をあらゆる感覚を使う広い意味での表現としてとらえていくこととする。

(2) 精選していくことと、繰り返し出合わせたいものを探る

- 内容の精選とそれによって生み出すことができる時数によって活動の充実を探る。

例えば、版で表す造形活動では今までは学年が上がるのに伴って、紙版・石こう・木版・多色刷り・エッチング等の版表現の発展を設定した。しかし、一貫教育で進めるならば、幼稚園で版あそびで版表現との楽しい出会いをし、小学校で版表現の素材体験を広げ、中学校ではそれまでの版表現の出会いから、選択美術などで表現テーマに合わせた版表現を選択して取り組むことも考えられる。

- 一貫教育を見通して繰り返し扱うことで、造形表現を豊かにでき素材や表現方法・表現テーマを探る。

例えば、描画材料としてよく使用するものに、コンテ・クレヨン・水彩絵の具があり、中学校から多く使用するものにポスターカラー・アクリルがあるが、このような描画材料は11年を通して繰り返し使用する表現素材であると言える。繰り返し使うことで、子どもたちは自分の表現の目的に合わせて描画材料を選び、その特徴を生かして使いこなすことができるようになる。そこで、子どもの表現への思いに沿うことができるように学年段階での表現材料の適時性を探り、授業実践に反映させる取り組みを行う。

■分科会の整理と総括■

1 分科会テーマの趣旨について <松本>

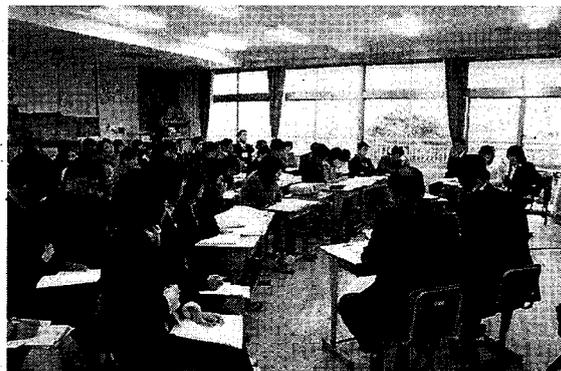
本分科会は、生きる力へとつながる「能力」を培うため『(表現・図工・美術)がそこへ向って如何に貢献しうるか?』を基本的な課題として、それぞれ学校園の教員が相互に日頃の活動を参観し合うなどの取り組みを通じ検証を試みてきました。その途中経過として、今回は『活動事例集』及び「材料」・「用具」に着目した使用系統表を作成しました。これら一連の活動が11年間にわたる一貫教育カリキュラムを構築する手がかりとなることを期待しつつ今回の分科会テーマとして設定しました。

2 発達段階に即した材料と用具などの使用系統表について <佐々>

ここにまとめられている内容は、これまで附属学校園において実施されてきた活動事例を基に特に「材料」・「用具」を中心に列挙したものです。しかし、これらの要素だけを発達段階に応じて取り上げ実践を行ってしまったのでは不十分となると考えています。例えば子どもの造形活動を展開する上で大きく3つの要素『素材、手法、想』が大切であると考えた場合、この三者が一体となっはじめてその活動が誘発されるのであり、今回まとめた「材料」・「用具」という要素はあくまでも素材などの要素でしかなく、決して十分な編成とはいえません。本日は、そこのところをご理解いただいた上で意見交換を行い、新しいカリキュラムづくりへ向けての示唆をいただければ幸いであると考えております。

3 各附属学校園における活動事例について (発表)

- ・ 附属幼稚園 <井上>
- ・ 附属小学校 <松本>
- ・ 附属中学校 <錦織>



4 参観者からの意見

- ・ それぞれの学校園においてどのような活動がなされているかは、実は、意外と知り得ない情報だったりするので、今回の取り組みは非常に有意義であると感じました。伺いたいのは、中学校の先生から見て小学校ではどんなところを育ててもらえるとよいかという点や、小学校や幼稚園の授業を見てこれは取り入れてみたいというところ、つまり、互いの授業を見合って気付いた違いや、逆に取り入れてみたいと思ったことなどがあれば、ぜひ参考にしたいと感じました。
- ・ 幼稚園においては、子どもによって興味関心の赴く対象が異なるので、それぞれの子どもの特に関心を示した活動について集中的に取り組ませるようにしたいと思っています。つまり、素材と関わるとか、追求するというような経験が重要ではないかと考えているためです。特に大切にしているのは、素材に出合う楽しさや、発見する喜びなど全身を使って感じるような体験を充実させることです。おそらく、小学校や中学校においても素材と関わることの大切さは同じで、例えば箸ペンなどの教具をつくるどころからはじめたりする活動が個性的な表現につながるのではないかと考えています。
- ・ 幼稚園では、子どもが美しいものを美しいと感じる心、例えば、温かいとか、冷たいとか、空が美しいと感じるとか、そういった体で感じる感覚を育むことが大切ではないかと考えています。しかし、中にはどうしても概念的に物事を捉えようとする子どもたちもいたりします。そのような子どもたち

に対しては、その概念を崩すような活動をさせたいと思いますし、また、どうしても漠然と描いていたりしてしまう子どもに対しては、少し抵抗感のある素材を与えてやるように心がけています。つまり子どもの育ちによって与えるべき素材等々も変わってくるということではないか、ということです。個人的に幼稚園では、表現や造形ということを通じて人間性みたいなものを育ててやりたいと考えています。

- ・美術館で働くものとしては、ぜひ鑑賞を一貫教育の中に取り入れてもらいたいと考えています。日々美術を見せる仕事に携わる中で感じることは、子どもだけではなく多くの大人にとっても「みる力」というものが十分に育っていないのではないかとことです。本質的には、「つくること」と「みること」とが有機的につながっていくことで美術教育における可能性が広がっていくのではないのでしょうか。

5 まとめ <佐々>

本日は、子どもたちが日々の活動の中で表現の楽しさや素材に出合う喜びや、先生方が豊かな感性を育む実践に取り組んでおられる様子を伺えたように感じています。

近年の造形教育では、情操や感性の教育といった考え方が普及する中で次第に子どもたち一人ひとりの持ち味を生かす造形活動が展開されつつあります。

今後、新たなカリキュラムを構築するにあたり大切にしなければならないことは、単に技術を教え込むのではなく子どもの興味関心や、表現することの楽しさ、といった視点を併せ持つよう配慮することではないか、と考えています。

●参観者のアンケートより抜粋

- ・幼小中が場を1つにしての話し合いだったことは、自分が現在関わっている年齢の子どもたちだけでなく、前後を見通し全体的な育ちの中で改めて考え直してみる結果となり、とても有意義なものでした。幼小中を通した活動事例集は、今後参考にさせていただきます。
- ・表現というとても抽象的、広義的な学びを、素材や用具にポイントをしぼり、学びの連続性を表にまとめておられ、こんな考え方もあるのか・・・と驚かされました。自分の表したいことを楽しみながらうまく表現するには、ある程度の技術、素材との出合わせ方等テクニク的な要素もあると思いますが、基盤にあるのは安心して表現できる場（環境、人間関係）と感じる心だと思います。幼小中の教師がお互いの授業を見て学び合う機会の必要性を感じました。
- ・素材の系統性を明確にするのは難しいと思いますが、何らかの素材で何をねらうのかを考えていくと「発達段階」が見えてくるのではと思います。全内容の表をつくるというのは無理（いきなり）なので、幼小中で1つ決めて（例えば造形遊び）比べ合ってみてもいいかなと思いました。発達段階における技術の習得ももちろん大切ですが、共通すること「つくりたく思う心」・「達成した喜び」・「お互いのよさを見合う姿など」が表れるような手だてを幼小中ごとにストックしてもいいのではと思います。